

平成 27 年度第 2 回大阪府地方独立行政法人
大阪府立環境農林水産総合研究所評価委員会
議事要旨

- 1 日時 平成 27 年 8 月 6 日（木）午後 1 時 30 分～
- 2 場所 大阪赤十字会館 401 会議室
- 3 出席委員 原島委員長、近藤委員、芝原委員、水谷委員、渡辺委員
菊井専門委員、喜田専門委員、山田専門委員

4 議事内容

(1) 平成 26 事業年度業務実績の評価について

法人から、資料 1 から 5 に基づき、平成 26 事業年度の業務実績について報告が行われた後、質疑応答、小項目評価についての審議が行われた。

18 の小項目について審議を行った結果、17 の小項目については、法人の自己評価を妥当と判断した。

小項目番号 11 については、法人の自己評価はⅢであったが、

- ・ H25 年度には競争的資金の採択数が例年以上に多く、H26 年度は研究員のエフォートがそれらの採択事業の実施に割かれているにもかかわらず、応募件数は目標を達成していること
 - ・ 大学の研究所など学術研究に特化した機関と比べると、地方公設試験研究機関は調査研究以外にも果たすべき業務が多いが、これまでの調査研究資金への積極的な応募・採択を通じて培われた調査研究の成果を事業化に結び付けたこと
 - ・ そのための研究者の育成にも努めていること
- などを高く評価し、委員会評価をⅣとした。

<主な意見>

- ・ 研究所には一定数の受託研究に対応するだけの人員、設備があるのだから、年度によって受託研究の件数に増減があるならば、受託研究件数が減少した場合には、余裕が生じた人員や設備を使い、研究所の使命である事業者への貢献のため、例えば困難な課題にチャレンジするなど自主的課題に取り組むことを検討されたい。
- ・ 受託研究において、受託に至らなかった研究課題がある場合には、その要因を分析・考察することにより、調査研究力の向上に役立て、研究所の発展につなげていく必要がある。
- ・ 技術支援においては、事業者発の技術・アイデアを研究所がサポートする場合と、研究所発のイノベーションから新しい産業が起きる場合の両方があり、いずれも

大事であるが、技術支援の業務実績として報告する場合に両方を区分せずまとめた件数だけで表すだけでなく、研究所発のイノベーションについてはPRするなど、研究所の成果が府民等によく分かるようにすべきである。

- 技術相談件数等の増減要因を分析することにより、事業者支援のあり方を検討する際の参考資料とし、今後の活動に活かすことを検討されたい。
- 農業大学校では、農業従事者だけでなく、農業団体や行政等において活躍する農業指導者の育成にも積極的に取り組んでいくことを期待する。
- 論文が研究所の成果を代表するような重要なものである場合や論文の中身として優れたものである場合は、論文の要約をホームページに掲載するなどしてPRすることは、研究所の評価を高め、発信力を高めることにつながると思われる。従って、こうした場合には、論文の分かりやすい要約のホームページへの掲載に努められたい。
- 府民が研究の成果をより良く理解するためには、研究成果が論文や学会等発表につながったなどの記載があることが望ましい。
- 任期付き職員などの活用にあたっては、不安定な雇用形態に起因して研究に支障をきたさないよう、優秀な職員については安定的な雇用形態に移行できるよう、テニュアトラック（一定の任期を付して雇用した後に審査を経て任期終了後のテニュアポスト（安定的な職）を用意する制度）などの制度や研究者の業績評価制度の整備を検討されたい。
- 研究員が博士号を取得するための支援を引き続き実施するなどにより、研究員の調査研究力を高め、環境・農林水産分野において、研究と実務との橋渡しとなれる人材を育成することを期待する。
- 食とみどり技術センターの建替え整備に伴い、これまでできなかった新たな取組等についての検討を進められたい。

（２）中期目標期間終了時の検討に係る意見について

第１回委員会における委員・専門委員の意見を踏まえ作成された、資料６の意見書のたたき台について、事務局から説明が行われた後、審議が行われた。

<主な意見>

- たたき台には、研究所の取組の代表事例として「キジハタ資源の増大」が挙げられているが、研究所では多くの取組が行われており、水産分野だけでなく、環境や農業分野の取組についてもバランスよく記載する方が適切ではないか。
- ３段落の「限られた資源」の「資源」は、人材や財源を意味すると思われるが、２段落の「キジハタ資源」の「資源」と意味が異なるので、違う表現に改める方

が適切である。

- 3段落に、府の施策の推進に貢献することを追記すべきである。

(3) その他 特になし

以上